

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	総合音楽理論Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験34年 1987年メジャーデビュー。以降アルバム10枚シングル10枚をリリース。1991年にはメガヒットを放ち、今もカラオケやYouTubeで愛され続けている。自身の活動のかたわら、有名アーティストへの楽曲提供、サポートなども行っている。				
授業概要					
実践的なスタジオワークなどで使われる音楽理論の応用学習。					
到達目標					
ギター・アンプ・エフェクターに関する知識をより深め、自立したミュージシャンとして、ひとりの音楽家としての姿勢について考究する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 予習復習の注意点 コースイベント概要説明
【前期】 6～10回目	マスター譜の完成度を高めるレクチャー。 翌月のライブイベント(コース内)を迎えるにあたっての心構え、注意点など。
【前期】 11～15回目	ライブイベント終了後の反省点、今後はどう生かすかのディスカッション。
【前期】 16～20回目	夏休みを迎えるにあたっての注意点、アーティストとしての休日の過ごし方など。
【後期】 1～5回目	音楽の雑学的な知識(音楽史)のレクチャー。
【後期】 6～10回目	2回目のライブイベント実施、そして反省。 学園生活でやっておくべきことの意見交換。
【後期】 11～15回目	楽園祭ライブオーディションに向けた諸注意
【後期】 16～19回目	1～3月の学園行事の確認。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	様々な角度から音楽を学び、さらなるレベルアップを目指そう。
使用教科書	カリキュラムにのっとったオリジナル教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	サウンドデザイナーⅡ	授業形態 / 必・選		講義		必修		
		年次		2年次				
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位			
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース							
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目						該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験41年 アメリカの音楽大学へ留学し、在学中にプロとして活動開始。卒業後帰国し、フリーのギタリスト、コンポーザー、アレンジャーとして現在に至る。様々なアーティストのサポート、レコーディング、ミュージカルなど、幅広いフィールドで演奏活動をしている。自身の活動においてリーダーとしてライブ活動を行い、3枚のCDをリリース。							
授業概要								
オリジナルの楽曲をアレンジしてコンピュータでレコーディングし、ミックスして完成させるまでについてを学ぶ。								
到達目標								
オーディションに提出するレベルのオリジナル曲の完成。楽曲をより多く作る。								

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	作曲する上での音楽的な理論
【前期】 7～13回目	楽曲のアレンジについて
【前期】 14～19回目	楽曲をアレンジしていく上でのテクニックについて
【後期】 1～6回目	DTM(打ち込み)について
【後期】 7～13回目	ギター、ヴォーカル等のレコーディングのテクニックについて
【後期】 14～20回目	ミキシングのテクニックについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	PCを使った曲作りは慣れればスムーズに作れるようになります。楽しみましょう。
使用教科書	基本個人個人の対応になるので、メソッドはその都度オリジナルのものを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターヴォーカル実技Ⅱ-A	授業形態 / 必・選		実習		必修
		年次		2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					
	該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	実務経験11年 2008年インディーズ・レーベルより、ファースト・ミニアルバムリリース。2010年メジャーデビュー。自身のグループの作詞の多くを手掛ける。					
授業概要						
課題曲をセレクト、楽曲に合わせた歌い方、歌唱テクニックの使用方法についての指導を行う。						
到達目標						
ギターヴォーカルとして基礎的な発声方法を反復、習慣化し、技術の上達、個々のオリジナリティを獲得する						

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション 課題曲選曲
【前期】 6～10回目	第1回ギタボミーティング(ライブ)に向けた歌唱指導。
【前期】 11～15回目	自己評価と反省。
【前期】 16～20回目	第2回ギタボミーティング(ライブ)に向けた課題曲①②の歌唱指導。
【後期】 1～8回目	第2回ギタボミーティング(ライブ)に向けた課題曲①②の歌唱指導。
【後期】 9～10回目	自己評価と反省。
【後期】 11～19回目	3回目のギタボミーティングに向けた歌唱指導、アドバイス。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌は日々の努力の積み重ねです。あきらめずに頑張ってください。
使用教科書	楽曲を歌うことを中心にレッスンを行うので教科書は使いません。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォーカル実技Ⅱ-A	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験35年 1986年メジャーデビュー。9枚のソロアルバムをリリース。タイアップ多数。現在もライブを中心に活動をしている。また、ヴォイストレーナーとしても活躍中。				
授業概要					
ギタリストとして備えるべき理論の実践、現段階での弱点の克服、読譜等総合的に学ぶ。					
到達目標					
ギター演奏技術、応用力、感性などの向上させ、学校内外へ発信出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次の復習、不足部分の強化。 和音の成り立ちを理論的にレクチャー。
【前期】 6～10回目	主要三和音、ダイアトニックコードを全てのキーで弾けるようにレクチャー。 簡単な楽譜を読み書きしながら、また演奏できるように指導。
【前期】 11～15回目	試験後の反省、弱点の強化。 サウンドメイキングについて(第1部)
【前期】 16～20回目	リズムの強化、読譜の強化、循環コード進行、テンションコードについて。
【後期】 1～5回目	レコードコピーや、楽譜からどう弾くかを読み取り実践。
【後期】 6～10回目	学生からの要望曲などのコピー方法等レクチャー。
【後期】 11～15回目	サウンドメイキング(第2部)
【後期】 16～19回目	ステージでの心得や対処等レクチャー。
【後期】 20回目	一年間の総まとめ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ギターにまつわる技術を深く習得してゆこう。
使用教科書	ギターコースのメソッドも使用した学内オリジナル教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ギターヴォーカル実技Ⅱ-B	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1994年にメジャーデビュー。以来、いくつかのバンドの結成解散を繰り返しながら4度のメジャーデビュー。フジロックフェスティバル出場4回。現在も轟音ギターバンドからアコギ弾き語りまで幅広く活動中。				
授業概要					
洋楽の課題曲をドラムパターンに合わせて一人でギターを弾きながら歌えるようになるようになるために、知					
到達目標					
さらに高度にしたギターヴォーカルテクニックを身に付けギターボーカルとしての自信を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	課題曲の概要、系譜に関する講義
【前期】 6～10回目	ギターボーカルテクニックについて (チョーキング、スライド、ハンマリング、プリング、リフ)
【前期】 11～15回目	ギターボーカルテクニックについて (ギター2本のアンサンブルで、アンプでの音作り)
【前期】 16～20回目	ギターボーカルテクニックについて (オンコード、カノン進行ヴォーカルアドリブセッション)
【後期】 1～4回目	ギターボーカルテクニックについて (高速8ビートのダウンピッキング、アクセント)
【後期】 5～8回目	課題曲の概要、系譜の講義、歌詞についての考察
【後期】 9～12回目	ギターボーカルテクニックについて (6/8拍子)
【後期】 13～16回目	ギターボーカルテクニックについて (耳コピ、聴音、ダイアトニック、カポでのkey変更)
【後期】 17～20回目	1年次の課題曲の復習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	様々なリズム、テンポを経験することで、技術を向上させていきましょう。
使用教科書	メソッドにそったプリントを使用

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	エレキギター実技Ⅱ-A	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験36年 ジャズ、ラテン、クラシックなど幅広く学ぶ。CM曲やCDのレコーディング、ライブ等のセッションを重ね、教則本を数冊出版。また、舞台劇中における楽士おして出演し、好評を得た。その後、ヨーロッパツアーを行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
ギターヴォーカリストとして重要なギター演奏方法を学ぶ。					
到達目標					
楽器の特性を理解し、自身のアーティストとしての方針に合った技術の習得					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	コード(3和音と4和音)の確認
【前期】 6～10回目	メジャー＆マイナースケールを弾くトレーニング
【前期】 11～15回目	メジャー＆マイナーペンタトニックスケールを弾くトレーニング
【前期】 16～21目	メジャー＆マイナーペンタトニックスケールを混ぜてブルースを題材にアドリブギターを弾くトレーニング
【後期】 1～5回目	マスター譜のコードとリズム譜を見て、マスター譜を目で追いかけてながらコードバックを弾くトレーニング
【後期】 6～10回目	マスター譜のコードを見て、コードに対応した様々なアプローチのバックを弾くトレーニング
【後期】 11～14回目	マスター譜のコードを見て、コードに対応した様々なアプローチのソロプレイ(アドリブギター)を弾くトレーニング
【後期】 15～18回目	総合練習曲を題材に自分なりのアプローチによるバックとソロプレイの両立
【後期】 19回目	一年間の総まとめ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	堂々としたパフォーマンスを裏付けるのは、知識と練習量です。
使用教科書	ギターコースのメソッドも使用した学内オリジナル教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	エレキギター実技Ⅱ-B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験38年 1982年メジャーデビュー。次々とCDをリリースし、全国をライブ展開。その後、数々のアーティストのサポートとしてレコーディングに参加。他にも様々なジャンルで精力的にライブ展開、活動中。				
授業概要					
ギタリストとして備えるべき理論の実践、現段階での弱点の克服、読譜等総合的に学ぶ。					
到達目標					
ギター演奏技術、応用力、感性などの向上させ、学校内外へ発信出来る。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次の復習、不足部分の強化。 和音の成り立ちを理論的にレクチャー。
【前期】 6～10回目	主要三和音、ダイアトニックコードを全てのキーで弾けるようにレクチャー。 簡単な楽譜を読み書きしながら、また演奏できるように指導。
【前期】 11～15回目	試験後の反省、弱点の強化。 サウンドメイキングについて(第1部)
【前期】 16～20目	リズムの強化、読譜の強化、循環コード進行、テンションコードについて。
【後期】 1～5回目	レコードコピーや、楽譜からどう弾くかを読み取り実践。
【後期】 6～10回目	学生からの要望曲などのコピー方法等レクチャー。
【後期】 11～14回目	サウンドメイキング(第2部)
【後期】 15～18回目	ステージでの心得や対処等レクチャー。
【後期】 19回目	一年間の総まとめ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ギターにまつわる技術を深く習得してゆこう。
使用教科書	ギターコースのメソッドも使用した学内オリジナル教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォーカル実技Ⅱ-B		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1996年メジャーデビュー。2002年より、ボイストレーナーとしてプロ・アマ、ジャンル、年齢問わず、幅広く指導中。自らの音楽活動の傍ら、楽曲提供・ナレーションなどでも活動中。かつては映画で主役を務めた。これまでのべ2000人以上のボイストレーニングを行う。				
授業概要					
「腹式発声」重要視し、毎授業時間の最初に発声をして、腹式発声、喉のひらきが出来ているかどうかは、講師が必ず確認する。					
到達目標					
ボーカリストとしての基本、身体の使い方、歌唱力、表現力を向上させ、ギターボーカルとしてギターを弾きながらもクオリティの高いボーカルパフォーマンスが出来る					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	リップトリル、ターンロールなどを使った腹式呼吸、腹式発声の確認、発声練習。 ストレッチなども踏まえたフィジカル向上の為のエクササイズ。 身体の使い方、口の開け方、発声の方法などをレクチャー。
【前期】 6～10回目	リズムのアプローチ(8beat、16beat、2拍4拍のアクセント etc.)についての歌唱指導。 ギターボーミーティングに向けた練習、指導。 各自の弱点を克服するような課題曲での練習、指導。
【前期】 11～15回目	言葉に対するアクセント、フレーズに対する抑揚をカラオケを使用して指導。 ビブラートのかけ方をレクチャー。
【前期】 16～20回目	言葉を伝える為のニュアンス、トーンコントロールの指導。 高音の脱力の練習。ミックスヴォイスを習得する。
【後期】 1～4回目	スタaccart、ポルタメントなどテクニックのレクチャー。 低音における身体の使い方、声の出し方の習得。
【後期】 5～8回目	弾き語り歌唱指導。
【後期】 9～12回目	ギターボーミーティングに向けた練習、指導。 曲の持つグルーヴを理解した上での歌唱。
【後期】 13～19回目	卒業後の活動に向けた課題曲選定、歌唱指導。
【後期】 20回目	発表会形式で今一番歌いたい曲を歌唱する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティストとしてより力強いパフォーマンス力、歌唱力を身につけましょう。
使用教科書	基本的にテキストは不使用。メソッドによってはプリントも使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	2年次
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐			
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。			
授業概要				
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。				
到達目標				
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。				

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAWⅡ(前期)		授業形態 / 必・選	講義	選択
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～3回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
4～6回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
7～9回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
10～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～19回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏ができずともDAWを用いて楽曲制作を行うことができる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAWⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～3回目	Drummer機能やLoopの貼り付けを中心に、楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
4～6回目	Midiキーボードを打ち込んでいく方法で楽曲を制作する タイムクオンタイズの方法を習得
7～9回目	打ち込み音源に、実際のギター・ベースなどの楽器演奏を録音する
10～12回目	ヴォーカル用のオケ制作、オリジナル楽曲のデモ制作 流行音楽の耳コピーおよびオケ制作
13～16回目	トラックのミックスの重要性を学ぶ
17～19回目	楽曲制作および発表、講師や受講者による講評
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏ができずともDAWを用いて楽曲制作を行うことができる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映像制作（前期）	授業形態 / 必・選	講義	選択			
		年次	2年次				
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。						
授業概要							
iPadを用いた動画制作の方法を学び、課題テーマに沿った映像や自身でディレクションした映像の制作を行う。							
到達目標							
動画制作における機器の基本操作方法を習得する 自身のアイデアを撮影し、それを映像として完成させる							

授業計画・内容	
1～3回目	iPadおよびiMovieの基本操作について
4～6回目	複数の映像素材を使用したエディット練習
7～9回目	課題テーマに沿った映像作品の制作
10～12回目	課題テーマに沿った映像作品の授業内発表
13～16回目	自由課題による映像作品の制作
17～19回目	自由課題による映像作品の授業内発表
評価方法	授業内発表の評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	簡単なプロモーションムービーやミュージックビデオなど、動画制作の第一歩としての履修を前提とする。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映像制作（後期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
iPadを用いた動画制作の方法を学び、課題テーマに沿った映像や自身でディレクションした映像の制作を行う。					
到達目標					
動画制作における機器の基本操作方法を習得する 自身のアイデアを撮影し、それを映像として完成させる					

授業計画・内容	
1～3回目	iMovieの機能の紹介
4～6回目	課題テーマの発表および素材撮影のためのロケハン
7～9回目	課題テーマに沿った映像作品の制作
10～12回目	課題テーマに沿った映像作品の授業内発表
13～16回目	iMovie以外の動画制作ソフトの紹介および使用
17～19回目	自由課題による映像作品の授業内発表
評価方法	授業内発表の評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	簡単なプロモーションムービーやミュージックビデオなど、動画制作の第一歩としての履修を前提とする。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映画鑑賞（前期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1992年にCDデビュー。国内外でライブ活動を行い、テレビ・ラジオなどのメディアにも出演。著書「バンド・ボーカル読本」を発売し、近年はソロ活動やコラボバンドのリードヴォーカリストとしても活動中。				
授業概要					
エンタテインメントに関連する映像作品の鑑賞を通じて、脚本や撮影方法の工夫を学ぶ。					
到達目標					
教材として扱う映画作品の注視すべきポイントを知ったうえで鑑賞し、その手法を知る。 感受性が豊かになることで、自身の芸能活動におけるクリエイティビティを広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	作品① 鑑賞とリアクションペーパーの提出
4～6回目	作品② 鑑賞とリアクションペーパーの提出
7回目	ディスカッション「名作映画が名作とされているのはなぜか」
8～10回目	作品③ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
11～13回目	作品④ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
14回目	ディスカッション「今まで鑑賞した映画作品の中で一番好きな作品とその理由」
15～17回目	作品⑤ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
18～19回目	作品⑥ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
評価方法	各作品におけるリアクションペーパーの評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	映画には音楽・演技・ダンスなど様々なエンタテインメントが使用されている。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映画鑑賞（後期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1992年にCDデビュー。国内外でライブ活動を行い、テレビ・ラジオなどのメディアにも出演。著書「バンド・ボーカル読本」を発売し、近年はソロ活動やコラボバンドのリードヴォーカリストとしても活動中。				
授業概要					
エンタテインメントに関連する映像作品の鑑賞を通じて、脚本や撮影方法の工夫を学ぶ。					
到達目標					
教材として扱う映画作品の注視すべきポイントを知ったうえで鑑賞し、その手法を知る。 感受性が豊かになることで、自身の芸能活動におけるクリエイティビティを広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	作品① 鑑賞とリアクションペーパーの提出
4～6回目	作品② 鑑賞とリアクションペーパーの提出
7回目	ディスカッション「名作映画が名作とされているのはなぜか」
8～10回目	映画に限らず、自身の好きな「映像コンテンツ」についてプレゼンテーション
11～13回目	作品③ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
14回目	作品④ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
15～17回目	作品⑤ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
18～19回目	ディスカッション「映画における音楽の効果について」
評価方法	各作品におけるリアクションペーパーの評価、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	映画には音楽・演技・ダンスなど様々なエンタテインメントが使用されている。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択セルフスタイリング（前期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 スキンケア、メイクの基礎から応用、セルフスタイリングなどを指導。特殊メイク、エアークラッシュメイクを習得し、音楽の現場を主にミュージシャン、アーティスト、声優のヘアメイクを担当。撮影、イベント、舞台など、多方面で活躍している。				
授業概要					
自身の肌質や髪質を知り、各自に適したヘアスタイリングやメイクアップ方法を学ぶ。					
到達目標					
スキンケアやヘアケアの方法を習得する。 オーディションやイベント時のセルフスタイリング方法を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	肌ケア、肌トラブルについての講義を通して、スキンケア方法を学ぶ。
4～6回目	メイクアップの基礎知識とナチュラルメイクの方法を学ぶ。
7～9回目	基礎メイクをベースにした応用メイクを学ぶ。
10～12回目	ヘアアレンジ基礎として、ヘア道具やスタイリング剤の扱い方とヘアアレンジのベース作りを学ぶ。
13～16回目	基礎をベースにした応用ヘアアレンジ方法を学ぶ。
17～19回目	ヘア、メイク応用実技 自分に合ったバランスの良いメイク、ヘアスタイルを完成させる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	我流のメイクやヘアアレンジを続けていると、肌や髪を痛める原因にもなりますので、この授業を機に正しい方法を身に付けてください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択セルフスタイリング（後期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 スキンケア、メイクの基礎から応用、セルフスタイリングなどを指導。特殊メイク、エアブラシメイクを習得し、音楽の現場を主にミュージシャン、アーティスト、声優のヘアメイクを担当。撮影、イベント、舞台など、多方面で活躍している。				
授業概要					
自身の肌質や髪質を知り、各自に適したヘアスタイリングやメイクアップ方法を学ぶ。					
到達目標					
スキンケアやヘアケアの方法を習得する。 オーディションやイベント時のセルフスタイリング方法を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	自分自身の肌質を理解する
4～6回目	自分の肌質にあったメイクアップの方法や、欠点をカバーする方法を学ぶ
7～9回目	各種メイク道具を用いた実践
10～12回目	ヘア道具やスタイリング剤の扱い方とヘアアレンジを学ぶ
13～16回目	ステージ用のヘアアレンジ方法を学ぶ。
17～19回目	自身のトータルアレンジを行って、写真撮影を行う
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	我流のメイクやヘアアレンジを続けていると、肌や髪を痛める原因にもなりますので、この授業を機に正しい方法を身に付けてください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ボディメイキング（前期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 フィットネスインストラクターとしてトレーニング指導を行う。また、モデルとして雑誌やCM、TV出演。スポーツ施設受託運営、出張パーソナルトレーニング、スポーツイベント企画を行う会社を運営も手掛ける。				
授業概要					
人間の身体の仕組みや、効率の良い筋力トレーニングや体幹トレーニングの方法を学ぶ。					
到達目標					
どのようなトレーニングがどのような効果を生むのかを知る。 各種トレーニングを習慣化する。					

授業計画・内容	
1～3回目	骨格・骨格筋の知識を取得&基本姿勢を作る為のホームトレーニングパターン
4～6回目	トレーニング原理・原則による実技(目標・目的に応じたトレーニング法)
7～9回目	体幹を意識した自重トレーニング理論・実技&ストレッチの基本～応用
10～12回目	セルフボディーケア(ゆるみ・こわばり調整)器具を使用するトレーニング方法
13～16回目	ダイエットに関する理論&器具を使ったサーキットトレーニング(脂肪燃焼メイン)
17～19回目	自重スーパーサーキット法を用いた高負荷トレーニング(心肺持久力・脂肪燃焼メイン)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティスト・俳優・声優などの芸能活動における基礎となるトレーニング方法を教示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ボディメイキング（後期）	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 フィットネスインストラクターとしてトレーニング指導を行う。また、モデルとして雑誌やCM、TV出演。スポーツ施設受託運営、出張パーソナルトレーニング、スポーツイベント企画を行う会社を運営も手掛ける。				
授業概要					
人間の身体の仕組みや、効率の良い筋力トレーニングや体幹トレーニングの方法を学ぶ。					
到達目標					
どのようなトレーニングがどのような効果を生むのかを知る。 各種トレーニングを習慣化する。					

授業計画・内容	
1～3回目	骨格や骨格筋の知識を取習得し、基本姿勢をつくるためのトレーニング
4～6回目	各自の目標・目的に応じたトレーニング法を身につける
7～9回目	体幹を意識した自重トレーニングの実践
10～12回目	セルフボディーケア器具を使用したトレーニング方法の習得
13～16回目	脂肪燃焼を目的としたトレーニングの実践
17～19回目	心肺持久力・脂肪燃焼の目的とした自重スーパーサーキット法を用いた高負荷トレーニング
評価方法	学期末の試験、及び平常点（授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価）
学生へのメッセージ	アーティスト・俳優・声優などの芸能活動における基礎となるトレーニング方法を教示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択PC講座(Word/Excel)(前期)	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Microsoft Officeソフトの使用および活用方法について学ぶ					
到達目標					
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する Microsoft Officeでできることを知り、就職後やデビュー後の知識として身につける					

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Microsoft Office (Word) の使用方法の習得と実践
11～15回目	Microsoft Office (Excel) の使用方法の習得と実践
16～19回目	これまで学んだ知識を活用したレポートや集計表の作成
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択PC講座 (Word/Excel) (後期)	授業形態 / 必・選	講義	選択			
		年次	2年次				
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	19回 (38単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ (画像・動画等) を合わせた納品等を行う。						
授業概要							
Microsoft Officeソフトの使用および活用方法について学ぶ							
到達目標							
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する Microsoft Officeでできることを知り、就職後やデビュー後の知識として身につける							

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Wordを用いて求められたテーマに沿って資料を作成する
11～15回目	Excelにおける関数の習得およびそれを用いたデータ集計方法を習得する
16～19回目	Word/Excelいずれも用いてデータ作成を行う
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択PC講座 (Illustrator/Photoshop) (前期)	授業形態 / 必・選	講義	選択
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	19回 (38単位時間)	2年次 年間単位数 2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐			
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ (画像・動画等) を合わせた納品等を行う。			
授業概要				
AdobeのデザインソフトであるIllustratorとPhotoshopについて仕組みを学ぶ。				
到達目標				
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する 自身の作成したいデザインが少しでも実現できるようになる				

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Illustratorの使用法の習得と実践
11～15回目	Photoshopの使用法の習得と実践
16～19回目	これまで学んだ知識を活用したポスターの制作
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択PC講座 (Illustrator/Photoshop) (後期)	授業形態 / 必・選	講義	選択			
		年次	2年次				
授業時間	90分 (1単位時間45分)	年間授業数	19回 (38単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ (画像・動画等) を合わせた納品等を行う。						
授業概要							
AdobeのデザインソフトであるIllustratorとPhotoshopについて仕組みを学ぶ。							
到達目標							
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する 自身の作成したいデザインが少しでも実現できるようになる							

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Illustratorの基本操作を習得 提示されたテーマに沿ってデザインを行う
11～15回目	Photoshopの使用法の習得と実践 人物写真・風景写真の加工およびライティングを習得
16～19回目	IllustratorとPhotoshopをいずれも使用したポスター制作
評価方法	学期末の試験、及び平常点 (授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	・課題曲に対しての完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。 ・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。
4～6回目	・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。 ・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。 ・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。
7～9回目	・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。 ・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。
10～12回目	・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。 ・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。
13～16回目	曲に対しての、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～19回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。			
授業概要				
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。				
到達目標				
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。				

授業計画・内容	
1～3回目	課題曲に対する理解とその楽曲に対する自身の表現方法と向き合う パート同志の関連性を理解し、アンサンブル時のコミュニケーションの方法を知る
4～6回目	課題曲のマスター譜作成 音符や記号を用いて、各パートに必要な情報や変更を譜面に落とし込む
7～9回目	小発表会 パフォーマンスを客観視し、演奏技術面・パフォーマンス面を反省
10～12回目	学内イベントおよび外部イベントにおける提出必要資料を作成する
13～16回目	発表会へ向けたアンサンブルおよびパート別練習
17～19回目	大発表会 ステージ上で照明のある環境での発表を行い、細かなステージ演出まで反省
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験32年 ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
カラオケのレジャー感覚に留まらず、自己表現のとしての意識を持たせる。 もっとうまく歌いたいという向上心を持たせる。 1曲フルコーラスで歌えるようにする。					

授業計画・内容	
1～3回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
4～6回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
7～9回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
10～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～19回目	今までの復習 合同発表会(これまで身に付けたスキルを用いて実践する)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験32年 ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
カラオケのレジャー感覚に留まらず、自己表現のとしての意識を持たせる。 もっとうまく歌いたいという向上心を持たせる。 1曲フルコーラスで歌えるようにする。					

授業計画・内容	
1～3回目	クラス分けおよび自由曲の決定
4～6回目	腹式呼吸の方法、共鳴 自由曲の歌唱とフィードバック
7～9回目	ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール) 自由曲の歌唱とフィードバック
10～12回目	リズムコントロールと滑舌について 自由曲の歌唱とフィードバック
13～16回目	楽曲に合った表現を身につける 発表会の楽曲決定と練習
17～19回目	全クラス合同でステージ発表会
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ギター(前期)	授業形態 / 必・選		実習 選択	
		年次		2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。				
授業概要					
ギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明 オープンコードの習得
4～6回目	パワーコードの習得 チョーキング・ソロフレーズの習得
7～9回目	オクターブ奏法 サウンドメイキング講座
10～12回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。 8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
13～16回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。 主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
17～19回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。 アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ギター(後期)	授業形態 / 必・選		実習 選択	
		年次		2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。				
授業概要					
ギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	エレキギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明 パワーコードを中心とした演奏レッスン
4～6回目	オープンコードを中心としたバックギタ演奏 スケールの理解
7～9回目	ソログuitar練習
10～12回目	アコースティックギターの仕組みを理解 オープンコードを中心とした演奏レッスン
13～16回目	アルペジオを用いた演奏
17～19回目	各自自由曲を用いた弾き語りの習得
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験41年 有名アーティストのさまざまなステージ、レコーディング、サポートを行う。音楽雑誌にて、奏法解説などを連載。教則本もスラップ、5弦などの専門書など多数執筆。				
授業概要					
ベースの演奏に必要な技術、知識を習得する。 また、演奏を通してリズム感を培う。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したベースの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	チューニングのやり方。(各弦を何の音階に合わせるか等) 指板の説明。 右手の2フィンガーピッキング。
4～6回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
7～9回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
10～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 ピック奏法。リズムトレーニング(シンコペーション等の特殊なリズムにも挑戦)
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 スラップ奏法等の特殊な奏法に挑戦。
17～19回目	簡単なリフ等を演奏。 楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験41年 有名アーティストのさまざまなステージ、レコーディング、サポートを行う。音楽雑誌にて、奏法解説などを連載。教則本もスラップ、5弦などの専門書など多数執筆。				
授業概要					
ベースの演奏に必要な技術、知識を習得する。 また、演奏を通してリズム感を培う。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したベースの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	ベースのレギュラーチューニング、ツーフィンガー奏法
4～6回目	左手の運指トレーニング。メジャースケールの運指。 メジャーとマイナーの違い。
7～9回目	王道のメジャーコード進行の演奏。 メトロノームを用いたリズムトレーニング。
10～12回目	ピックを用いた演奏と、ツーフィンガー奏法との違いを理解する。
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲をメトロノームと一緒に演奏。
17～19回目	簡単なリフを中心に、楽曲演奏を練習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅡ(前期)	授業形態 / 必・選		実習		選択	
		年次		2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数		1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐						
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。						
授業概要							
基本的なリズムやグルーブを習得する。							
到達目標							
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。							

授業計画・内容	
1～3回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
4～6回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート:様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
7～9回目	フィルイン:8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。 16ビート:16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	フィルインとしてアクセントストロークを8ビート、16ビートのリズムパターンに入れる。 シャッフル:リズムの取り方、イーヴンとバウンスの違い。
17～19回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～3回目	自己紹介、授業内容の説明。 各々の目標決定を行う。
4～6回目	各楽器の名称や仕組みを知り、自身にあったセッティングを行う。 様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
7～9回目	8ビートを基調としたリズムパターンにフィルインを入れる スティックコントロールとリズムキープ①
10～12回目	16ビートを基調としたリズムパターンにフィルインを入れる スティックコントロールとリズムキープ②
13～16回目	課題曲に合わせた演奏
17～19回目	自由曲での演奏
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選		実習		選択	
		年次		2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数		1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐						
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。 バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。						
授業概要							
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。							
到達目標							
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。							

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。 バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 専門学校卒業後、アーティストのバックダンサーを中心にキャリアをスタート。 現在ではアイドルグループのコレオグラファーとしても活躍。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～3回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
4～6回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
7～9回目	音楽やリズムに合ったからの動かし方を学ぶ。
10～12回目	課題曲および振り付けを使用して練習する。
13～16回目	振り付けをいかした身体の魅せ方を習得する。
17～19回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験・発表会、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ダンスを通して身体を動かす楽しさやリズムをとることの大切さを学ぶ。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 専門学校卒業後、アーティストのバックダンサーを中心にキャリアをスタート。 現在ではアイドルグループのコレオグラファーとしても活躍。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～3回目	各部アイソレーション
4～6回目	簡単な振り付けでワンエイト振り入れ、反復練習と講師による修正①
7～9回目	簡単な振り付けでワンエイト振り入れ、反復練習と講師による修正②
10～12回目	各自発表を行い、講評を行う
13～16回目	複数人での振り入れ、反復練習と講師による修正
17～19回目	授業内発表会と講評
評価方法	学期末の試験・発表会、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ダンスを通して身体を動かす楽しさやリズムをとることの大切さを学ぶ。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。